

「日々の理科」(第2840号) 2022,-5,16  
～ 春の小石川植物園 ～  
「すこやか ふれあいウォーキング (5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

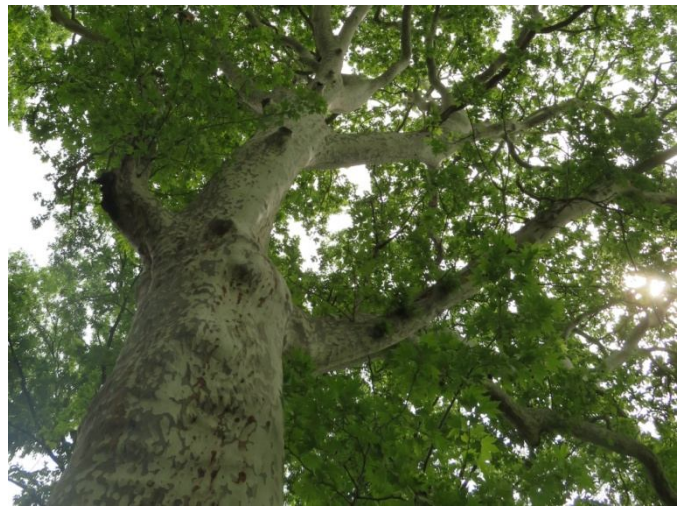
実は、これは私が作ったカードの記述に「原因」があった。「樹に耳をつけて、音を聞いてみよう」と書いておいたのだ。



24のちかく 77  
すずかけのき 15  
きにみみをつけて ちし  
おとをきいてみよう なって



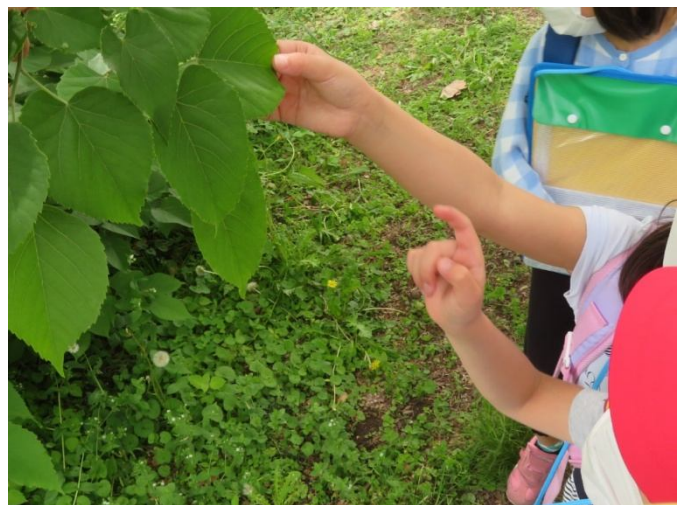
樹木によっては、幹に耳を当てると、何かしらの音が聞こえることがある。風で樹が揺れて、幹が軋む(きしむ)ような音をたてるような時だ。しかしそれは細かいシラカバのような樹で起きる現象で、このスズカケノキの巨木のように太い樹では、何も聞こえないことが多い。しかし小さな子どもは、大人よりもずっと耳が良く、特に高音域の聴力に優れている。実際に「ちっちゃい音が聞こえた」と、何人もが言っていた。



小石川植物園にある「モミジバスズカケノキ」は、恐らく国内の同種の樹でも、記録的な巨木だと思われる。見上げると、四方八方に太い枝を伸ばしている。



音が聞こえても聞こえなくても、この樹木の幹に触れれば、無事にシールをゲットできる。この子は5枚目のシールで、あと7枚だ。がんばれ1年生!



「ハートの形の葉」のボダイジュ(菩提樹)も人気があった。「ハートの形」に惹かれて、一番最初に訪れた親子もいた。植物園のボダイジュは、子どもでも触れる高さに葉が茂っているのが嬉しい。